

2017. 8. 8

苫小牧市長 岩倉 博文 様

戦争法廃止！苫小牧実行委員会

委員長 横山 傑

【押印省略】

## 日米共同訓練に対する緊急要請書

日頃のご精励に敬意を表します。

さて、10日から28日まで北海道大演習場（札幌市、北広島市、恵庭市、千歳市）、上富良野演習場、矢臼別演習場で実施される日米共同演習「ノーザンヴァイパー」は米海兵隊員2000人、陸上自衛隊員1300人が参加する国内の同種の訓練では過去最大となるといいます。

しかも、米海兵隊の新型輸送機MV22 オスプレイ6機が米軍三沢基地（青森県三沢市）を拠点に展開し、CH53 大型ヘリ4機、UH1ヘリ4機、AH1攻撃ヘリ4機が、沖縄からの「訓練移転」と称して参加する計画では夜間訓練も明らかとなり、オスプレイの夜間訓練が実施されれば国内の共同訓練で初めてのことになります。

ところが今月5日、オーストラリア東部沖で在沖縄米海兵隊所属のオスプレイが墜落し3人が行方不明となり、日本政府は国内でのオスプレイの飛行を当面自粛するように米側に申し入れる事態となっています。オスプレイは2015年5月にハワイでエンジンに砂塵を巻き込んで墜落し、乗員2名が死亡した事故でエンジンフィルターの不備が指摘されています。昨年12月には沖縄県名護市の沿岸部に墜落した事故に続き、今年6月には伊江島、鹿児島県奄美空港とたて続けにエンジントラブルにより緊急着陸しています。

陸上自衛隊の説明では今回の訓練でオスプレイは「市街地や住宅密集地上空は飛行しない」と説明しているにも拘わらず既に道内では7月31日、道南の島牧村でオスプレイの飛行が確認されています。その説明は全くなく、不誠実極まりない対応と言わざるを得ません。地元への説明もなし崩しでオスプレイの訓練が拡大されるのは認められません。

日米両政府は、共同訓練へのオスプレイの参加を沖縄の負担軽減のための訓練移転と説明していますが、本当に負担の軽減につながっているのでしょうか。普天間飛行場でのオスプレイの離着陸は減っても、その他の機種数の離着陸が多く、訓練移転が負担軽減になっていないとの沖縄県の調査もあります。むしろ、それを名目に、オスプレイの活動範囲を広げるのが狙いではないのかと、疑問を持たざるを得ません。

北海道演習場は周囲に住宅地が広がり、演習場外の飛行ルートで事故が起きれば、大惨事になる恐れがあります。苫小牧市上空を飛行する可能性は全くないのか、今回の墜落原因が究明され、その安全性が確認されるまでオスプレイの飛行は認められません。

以上の理由から下記の通り緊急要請しますので、早急に文書にて回答を求めます。

記

オスプレイが参加しての日米大共同訓練は今回の事故原因が確認されるまで認められません。オスプレイが苫小牧上空を飛行する可能性は全くないのか、今回の墜落原因や飛行ルートに関する説明を国に求め、それが確認されないなかでの訓練は認められないことを市として表明すること。